



月報だよりの原稿は毎月 20 日締切、翌月に発行の「天文月報」に掲載致します。校正をお願いしておりますので、締切日よりなるべく早めにお申し込み下さい。

e-mail で jimuj@geppou.asj.or.jp 宛。

なお、原稿も必ず Fax で 0422-31-5487 までお送り下さい。

人事公募

標準書式：なるべく、以下の項目に従ってご投稿下さい。結果は必ずお知らせ下さい。

1. 募集人員（ポスト・人数など）、2. (1) 所属部門・所属講座、(2) 勤務地、3. 専門分野、4. 職務内容・担当科目、5. (1) 着任時期、(2) 任期、6. 応募資格、7. 提出書類、8. 応募締切・受付期間、9. (1) 提出先、(2) 問合せ先、10. 応募上の注意、11. その他（待遇など）

筑波大学計算科学研究センター教員

1. 講師または助手 1 名
2. 計算科学研究センター素粒子宇宙研究部門（計算宇宙物理学分野）
3. 宇宙物理学（理論）
4. 宇宙初期天体、銀河形成等の研究の推進。今年度より、文部科学省科学研究費特別推進研究「融合型並列計算機による宇宙第一世代天体の起源の解明」（代表梅村雅之、2004 年度～2007 年度）が始まっており、高性能 PC クラスタと GRAPE-6 モジュールを融合させた並列計算機により、宇宙初期天体、銀河形成等の大規模シミュレーションを行うプロジェクト“FIRST”を進めている。この計画への積極的参加を期待する。週 0.5 コマの演習を担当。
5. (1) 決定後できるだけ早い時期
(2) 着任から 3 年間
6. 博士の学位を有する者
7. (1) 履歴書、(2) 業績リスト（論文は査読付きとその他を区別）、(3) 主な論文別刷（5 編以内、各 1 部）、(4) これまでの研究の概要（2,000 字程度）、(5) 研究計画と今後の抱負（2,000 字程度）、(6) 本人についての意見を求めうる方 2 名の氏名および連絡先
8. 2004 年 12 月 15 日（水）必着
9. (1) 〒305-8577 つくば市天王台 1-1-1
筑波大学計算科学研究センター
センター長 宇川 彰

- (2) 〒305-8577 つくば市天王台 1-1-1

筑波大学計算科学研究センター
素粒子宇宙研究部門長 梅村雅之

Tel: 029-853-6494

e-mail: umemura@rccp.tsukuba.ac.jp

10. 封筒に「宇宙物理学（理論）人事応募書類在中」と朱書き、簡易書留か宅配便でお送り下さい。
11. 本枠は、筑波大学学内プロジェクト研究（助成研究 (A)）「輻射流体力学による宇宙第一世代天体形成の解明」に基づく研究専任教員配置であり、給与は筑波大学の給与体系に従う。

筑波大学計算科学研究センター研究支援員

1. 研究支援員 2 名
2. 計算科学研究センター（計算宇宙物理学分野）
3. 宇宙物理学（理論）
4. 数値シミュレーションによる宇宙初期天体、銀河形成の研究を積極的に推進する意欲ある人材を望む。文部科学省科学研究費特別推進研究「融合型並列計算機による宇宙第一世代天体の起源の解明」（代表梅村雅之、2004 年度～2007 年度）で推進中の GRAPE-6 モジュール融合型 PC クラスタによる大規模シミュレーション・プロジェクト“FIRST”に参加する。
5. (1) 2005 年 4 月 1 日
(2) 2006 年 3 月 31 日まで。その後、年度ごとに 2008 年 3 月 31 日まで延長可能。
6. 博士の学位を有する者
7. (1) 履歴書、(2) 業績リスト（論文は査読付きとその他を区別）、(3) 主な論文別刷（3 編以内、各 1 部）、(4) これまでの研究の概要、(5) 研究計画と今後の抱負、(6) 本人についての意見を求めうる方 2 名の氏名および連絡先
8. 2004 年 12 月 3 日（金）必着
9. (1) 〒305-8577 つくば市天王台 1-1-1
筑波大学計算科学研究センター
センター長 宇川 彰
(2) 〒305-8577 つくば市天王台 1-1-1
筑波大学計算科学研究センター

素粒子宇宙研究部門長 梅村雅之

Tel: 029-853-6494

e-mail: umemura@rccp.tsukuba.ac.jp

10. 封筒に「特別推進研究支援員応募書類在中」と朱書し、簡易書留か宅配便でお送り下さい。

11. 経歴等に応じて、年間 300 万円前後の給与が支給される。

PASJ 論文編集校正者募集

出版が決まった論文の編集校正をして下さる方を募集しています。

単語の使い方、句読点、原稿全体のスタイルなどを校正編集して頂きます。作業は、在宅でも結構です。

応募条件: 天文学の知識(大学院レベル)がある。

英文科学雑誌に論文を投稿し掲載された経験がある。

読み書きや調べ物が苦手でない。

報酬: 頁あたりの出来高払い(委細面談)

ご興味がありましたら、まずは PASJ 編集部までご連絡下さい。

(社)日本天文学会 PASJ 編集部

〒181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1 国立天文台内

Tel: 0422-31-5488 Fax: 0422-31-5487

e-mail: office@pasj.asj.or.jp

人事公募結果

1. 掲載号
2. 結果(前所属)
3. 着任時期

国立天文台野辺山宇宙電波観測所上級研究員

1. 2004 年 5 月(第 97 巻 5 号)
2. 中西康一郎(国立天文台野辺山宇宙電波観測所研究員)
3. 2004 年 10 月 1 日

研究会・集会案内

「第 4 回 TAMA シンポジウム」 («重力波物理冬の学校」合同開催)

主催: 科研費特定領域研究「重力波研究の新しい展開」

総括班 同理論班 大阪市立大学理学研究科

開催日時: 2005 年 2 月 16 日(水)~19 日(土)

開催場所: 大阪市立大学学術情報センター 10F 大会議

室

〒558-8585 大阪市住吉区杉本 3-3-138

Tel: 06-6605-3211

内容: 特定領域研究「重力波研究の新しい展開」では、将来計画 LCGT (km 低温レーザー干渉計計画) を目指して、検出器開発、理論および関連領域における研究を進めている。本シンポジウムでは計画研究についての成果、および公募研究について講演される。講演内容は、TAMA 実験、実証型低温レーザー干渉計の建設、将来計画のための R&D、重力波の理論、地球物理学や原子干渉計技術への応用など。また、招待講演と一般講演を予定している。

定員: 150 名

参加費: 無料(懇親会費は別途)

講演申込: 一般講演の数は限られている。問い合わせのこと。

連絡先: 〒558-8585 大阪市住吉区杉本 3-3-138

大阪市立大学大学院理学研究科 神田展行

Tel/Fax: 06-6605-2648

e-mail: kanda@sci.osaka-cu.ac.jp

URL: <http://www.gw.hep.osaka-cu.ac.jp/>

TAMAsympo4/

会務案内

日本天文学会 2004 年秋季年会報告

2004 年秋季年会は 9 月 21 日(火)~9 月 23 日(木)の 3 日間、岩手大学上田キャンパス(岩手県盛岡市)にて口頭会場 7、ポスター会場 5 を使って開催された。講演件数は口頭講演が 346 件、ポスター講演が 270 件あり、合計で 616 講演だった。これに加え、ポストデッドライン講演が 2 件あった。年会参加者は 844 名だった。開催地理事の花見仁史氏および山内茂雄氏ほか岩手大学の方々の尽力で順調に行われた。企画セッションは以下の 4 セッションが開かれた。

「天の川創成プロジェクト」

世話人: 和田桂一(国立天文台)・牧野淳一郎(東京大学)・吉田直紀(名古屋大学)

「宇宙の大規模構造の形成と進化」

世話人: 谷口義明(東北大学)・関口和寛・児玉忠恭・有本信雄(国立天文台)・梅村雅之(筑波大学)・吉田直紀(名古屋大学)

「銀河団のクーリングフロー問題」

世話人: 戸谷友則(京都大学)・牧島一夫(東京大学)・藤田 裕(国立天文台)

「彗星物質の起源—二大彗星を迎えて—」

世話人：渡部潤一（国立天文台）・河北秀世（ぐんま天文台）・相川祐理（神戸大学）

座長は次の40名の方々（下表）に務めていただいた。会場・時間帯別にお名前を示す（敬称略）。

〈記者会見〉

春季年会の前日、9月20日13:30からプラザおでつにて記者会見を行った。松田卓也理事長よりの挨拶の後、以下のトピックスについての解説が行われた。7社の報道機関の出席があった。

○研究発表

- (1)「理科教育崩壊-天動説を支持する小学生は4割-」

記者会見出席者：

縣 秀彦（自然科学研究機構国立天文台）
飯田 毅（ミュージアムパーク茨城県自然博物館）

山縣朋彦（文教大学教育学部地学研究室）
有本淳一（京都市立搭南高等学校）

関連する講演番号：Y01a, Y02c, Y05b

- (2)「太陽の最期を見る？ 100億歳の星に巨大ガス放出を発見」

記者会見出席者：

中田好一（東京大学）
松永典之（東京大学）

関連する講演番号：N24a

- (3)「50万年に渡って伸びた星の帯：すばる望遠鏡、大銀河に壊される矮小銀河を発見」

記者会見出席者：

谷口義明（東北大学）
佐々木俊二（東北大学）

関連する講演番号：B17a, B18b, B20c, B23c

〈ジュニアセッション〉

今回は、秋の年会なので、ジュニアセッションとしてはポスター発表のみを募集した。4件のポスター発表があったが、発表の内容は、金星の日面通過に関係するものが3件、ペルセウス座流星群に関連するものが1件だった。高校生および高専生による発表であったが、いずれの発表も系統だった解析がなされており、レベルの高い内容だった。今回は、ポスターの掲示のみで研究を行った生徒の参加はなかったが、ポスターを見た人にコメントを書いてもらって発表者に送った。なお、発表の内容は、次回の春季年会時のジュニアセッション予稿集に掲載する予定である。

（吉川 真）

〈天文教育フォーラム〉

「著作権—あなたの利益と不利益の間で」というテーマで、天文教育普及研究会と共催で9月22日（15:00～16:00）に開催された。参加者は会場いっぱいの220名で、たいへん盛況であった。今回は著作権の法律的な規定の詳細を議論するのではなく、学者として執筆する立場にある人間にとっての、基本的な心構えについての話題を中心にした。

はじめに大槻義彦氏（早稲田大学、『パリティ』編集長）による基調講演「『パリティ』編集20年の経験から」があり、著作権についての基本的な考え方が紹介された。たとえ自分が書いたものであっても、全く同じ文章を違う雑誌に発表してはいけないこと、それがなぜいけないかは、読者の立場にたって見るとわかること、つまり、読者はその雑誌でしか読めない記事を期待して雑誌を買うからである。編集者・執筆者としての長年の経験をもとにした説得力ある内容で、ほのぼのとした語り口に引き込まれる講演であった。

	9月21日(火)		9月22日(水)		9月23日(木)	
	10:00-12:00	14:30-17:00	9:00-11:00	13:00-15:00	9:30-11:30	13:30-15:30
A	田村隆幸 (宇宙研)	服部 誠 (東北大)	小久保英一郎 (国立天)	吉田直紀 (名古屋大)	須藤 靖 (東京大)	関口和寛 (国立天)
B	—	北本俊二 (立教大)	蜂巢 泉 (東京大)	山岡 均 (九州大)	根来 均 (日本大)	米徳大輔 (金沢大)
C	高野秀路 (国立天)	宮田隆志 (東京大)	梅本智文 (国立天)	犬塚修一郎 (京大)	齋藤正雄 (国立天)	釣部 通 (大阪大)
D	本原顕太郎 (東京大)	千葉証司 (東北大)	菅井 肇 (京大)	村山 卓 (東北大)	三好 真 (国立天)	須藤広志 (岐阜大)
E	関口朋彦 (国立天)	伊藤洋一 (神戸大)	浅田秀樹 (弘前大)	浅井 歩 (国立天)	坂尾太郎 (宇宙研)	下条圭美 (国立天)
F	今井 裕 (鹿児島大)	中田好一 (東京大)	西尾正則 (鹿児島大)	高遠徳尚 (国立天)	早野 裕 (国立天)	河野裕介 (国立天)
G	宮田恵美 (大阪大)	片岡 淳 (東工大)	鶴 剛 (京大)	小杉健郎 (宇宙研)	和田武彦 (宇宙研)	—

このあと月報理事の土橋一仁氏（学芸大学）から「天文月報で研究者デビューを一宣伝効果と著作権問題」と題するコメント、および年会理事の土居 守氏（東京大学）より「年会発表の波及効果」と題するコメントがあった。三つの講演ともに内容の組み立て方や話し方がきわだっており、講演自体がプレゼンテーションのお手本のようにであった。なお、参加者には「パリティ」のバックナンバーが配布された。

（加藤万里子）

〈公開講演会〉

講演会のタイトルは、「天の川を旅する 21 世紀の銀河鉄道」で、9 月 20 日（月）14 時よりおでってホール（盛岡市）で開催された。松田卓也理事長（神戸大学教授）の挨拶の後に、まず真鍋盛二氏（自然科学研究機構国立天文台教授）の講演「動き出した地上の銀河鉄道：VERA（電波で測る）」が行われた。天の川の歴史の紹介から始まり、固有運動と見かけの運動など、距離の測り方の難しさの説明が丁寧になされた。また VLBI の原理の説明もなされ、それに伴って観測地点での台風被害などのエピソードがあって、プロジェクト推進の困難の一例も紹介された。

休憩後には、郷田直輝氏（自然科学機構国立天文台教授）の講演「宇宙に飛び出す銀河鉄道：JASMINE（赤外線で測る）」のタイトルで講演が行われた。やはり天の川の歴史認識の説明から始まったが、中国の天漢やミルクの道の語源から入り、何故今日の川を調べるか、その目的について、宇宙の階層構造からわれわれの銀河まで数値シミュレーションと合わせて、観測の図も見せられ、聴衆には直観的でたいへんわかりやすい説明がなされた。最後に JASMINE 計画の説明があった後に、JASMINE の花の絵で講演は締めくくられ、なごやかな雰囲気であった。講演終了後に鋭い質問をする熱心な聴衆者もあり、来場者には冊子が配られた。

入場者数は 30 名で、過去の最小記録を作るに至った。3 連休の最終日という日程の難しさに加え、広報が不十分であったことも指摘され、広報の重要性を浮き彫りにした公開講演会でもあった。（田 光江）

〈通常総会〉

「通常総会報告」（754 頁）を参照。

〈林 忠四郎賞受賞記念講演〉

2004 年度から林忠四郎賞受賞記念講演を行うことになり、受賞者の加藤万里子氏（慶応大学）、蜂巣 泉氏（東京大学）による講演「新星から超新星へ」が行われた。たいへん盛況かつ好評であった。

〈懇親会〉

懇親会は 9 月 22 日（水）18:30～20:30 に、岩手大

学キャンパスの大学生協中央食堂において開催された。参加者は 362 名であった。理事長の松田卓也氏による挨拶、岩手大学人文社会科学部学部長の高塚龍之氏による歓迎の挨拶、学会サポーターの紹介などの後、佐藤勝彦氏による乾杯で始まった。懇親会中に次回開催地を代表して明星大学の成相恭二氏による挨拶があった。（花見仁史）

〈保育室〉

保育室は学会会場近くの建物にある和室を使用した。2 家族、子供延べ 4 名の利用があった。保育者の派遣は（有）マミーズ・タイムに依頼した。準備にあたっては岩手大学の山内茂雄さんをはじめ、岩手大学の方々にご協力いただいたことを感謝する。

（加藤万里子）

〈企画セッション報告〉

「天の川創成プロジェクト」

本企画セッションのタイトルともなっている「天の川創成プロジェクト」は、超高速（1 ペタフロップス）の専用計算機システム上で、物理学的知識に基づいた高精度の銀河形成シミュレーションを行い、天の川銀河の構造とその成り立ち、さらにハッブルタイプの起源を探る、という野心的なプロジェクトです。本プロジェクトは、国立天文台、東大、名大の有志を中心に最近立ち上げられました。銀河形成過程の解明は天文学上の重要課題の一つですが、多くの物理現象がさまざまに関連しており、そのシミュレーションも一筋縄ではいきません。2 日目の午前、午後行われた本企画セッションでは、銀河形成シミュレーションの現状と課題、ハードウェア、そして天の川銀河の最新の観測結果についての 18 講演があり、それぞれ活発な議論が行われました。また午前の講演の後の自由討論では、プロジェクトについてより突っ込んだ議論が行われ、今後の戦略を練る上でたいへん参考になりました。120 名を超える参加者の皆さんと講演者の方々に感謝いたします。プロジェクトが進行しましたら、またこのような企画セッションを設けたいと思います。

（和田桂一）

「宇宙の大規模構造の形成と進化」

2004 年秋季年会において「宇宙の大規模構造の形成と進化」のタイトルで企画セッションを開催しました。四つのレビュー講演を含む 36 件の講演があり、セッション全体では約 5 時間に及ぶものとなりました。プログラムのにはかなりタイトな運営となりましたが、講演者の皆様のご協力をいただき、深く感謝しております。また、約 200 名の方々の参加を得て、非常に有意義なセッションとなりました。ご参加いただいた皆様にも深くお礼申し上げます。

宇宙の大規模構造の形成と進化については、ここ数年、いろいろな観点から研究が進み、非常にホットな研究分野になってきています。国際的にもインパクトのあるサーベイ観測が進められる一方で、理論・シミュレーション部門においても極めて質の高い研究が展開されている状況になってきていることが如実にわかるようなセッションになったのではないかと思います。赤方偏移で見ても $z=0$ から $z=30$ までを系統的に調べるアクティビティーが整いつつあるように感じました。本来であれば3日間程度の大研究会になるような盛りだくさんの内容でした。今後、この分野の研究の発展にさらに弾みがつくことを、世話人一同期待しております。これからも折を見て、テーマを絞りつつ第2回目、第3回目の企画セッションを開催できるようにしたいと考えておりますので、今後ともよろしく願います。(谷口義明)

「銀河団のクーリングフロー問題」

「銀河団ガスはX線放射によって冷却するはずなのにその兆候がなく、何らかの加熱源が必要である。しかし、その加熱源として満足できるものが見当たらない」—これが近年、国際的に大きく注目され、日本からの貢献も大きい「銀河団のクーリングフロー問題」で、さまざまな仮説が提唱され議論が続いています。

今回、企画セッションとしてこの問題を取り上げ、この問題に携わる主な日本人研究者が一堂に会して有益な議論をすることができました。これまでの分野横断的な企画セッションに比べ、分野的に狭いのではという指摘も受けましたが、むしろ問題点を一つに明確に絞りこんだ上で熱い議論を戦わせるディベート的なセッションという、企画セッションの新しい形を提案できたと考えております。口頭のみ9講演で2時間半という小ぶりのセッションでしたが、世話人の予想を大きく上回り150名を超える聴衆のご参加をいただき、最後の自由討論も30分以上続くという盛況でした。関係各位に感謝するとともに、このような企画セッションが今後定着すれば嬉しいと思います。

(戸谷友則)

「彗星物質の起源—二大彗星を迎えて—」

2004年秋季年会において「彗星物質の起源」のタイトルで企画セッションを開催いたしました。2時間30分の枠で16件の講演があり、初日の午前中にもかかわらず、会場一杯の聴衆のご参加がありました。

本セッションは、近年、明るい彗星の出現に伴い、より詳細な観測が行われるようになってきた彗星物質について、分子雲や原始太陽系星雲における物質化学進化との関係を議論することを目的に開催いたしました。発表は、おおまかに分けて難揮発性の塵と揮発性

の水物質との二つの話題に分かれ、塵についてはシリケート鉱物の結晶質/非晶質比について観測的、理論的な側面から多くの発表がありました。水物質については実験室での塵表面反応についての報告が多く、また、最近の彗星における分子のD/H比などについて、星間物質との関連が議論されました。今後また、明るい彗星が出現によって観測的な進展があれば、同様な場を設けたいと考えています。

(河北秀世)

(年会実行委員長: 土居 守)

【理事会議事録】

日時: 2004年9月21日(火) 12:40~15:20

場所: 岩手大学上田キャンパス学生センター棟4階会議室1

出席者: 松田, 祖父江, 若松, 杉山, 郷田, 関井, 松原, 土橋, 土居, 田, 蜂巢, 谷口, 粟木, 花見

欠席者: 佐藤

有効委任状提出者: なし

その他, 東條事務長, 成相恭二氏が出席した。

議事に先立ち, 署名人を選出した。

議長: 松田卓也

署名人: 杉山 直, 郷田直輝

報告

1. 前回議事録の確認(資料1)
杉山理事より前回(2004年7月3日)の理事会議事録が報告され, 原案通り承認された。
2. 開催中の年会について
開催中の年会の講演数(申し込み616件), ポストデッドライン, 企画セッション, 記者会見などの基本事項について, 土居理事より報告があった。『プラザおでって』で行われた公開講演会について, 30名ほどの出席者であったとの報告が田理事よりあった。今回の反省として, 早めの準備, 広報の徹底などが重要であることを確認し, これまでの経験をマニュアル化して受け継いでいくこととなった。
3. 用語集の使用許諾について(資料2)
科学技術振興機構(JST)で開発中の新索引システム(有償)に搭載するJST大規模辞書に天文用語集のデータを使用したい, という打診が天文学会に対してあり, 天文教材委員会で検討した結果, 有償で使用許諾を与えることにした旨, 杉山理事より報告があった。
4. 消費税について(資料3)
関井理事より, 2000-2001年度に欧文研究報告からの収入が急増したことなどから, 2002年度, 2003年度に関して消費税納入義務が生じていたことを見

落とし、納税していなかったことが判明し、修正申告を行った経緯について説明があった。今後は簡易課税制度を採用することで、納税額を約半額に抑えられるとのことである。

5. その他

(ア) 資料 役員・委員等一覧(資料4)、正会員年齢分布図(資料5)

杉山理事より標記資料の説明があった。

(イ) 衛星設計コンテストについて

田理事より、標記コンテスト実行委員会の報告があった。

議 題

1. 新入会員の承認(資料6)

杉山理事より、資料に基づき、新会員の入会が承認された。あわせて、退会者の報告があった。

2. 初等・中等の理科教育について(資料7)

前回の評議員会での初等・中等理科教育をより良い方向へ持っていくために天文学会としても取り組むべきであるとの議論、天文教育普及研究会から中央教育審議会会長宛への提言(資料7)、縣氏の記者発表(4割の小学生が天動説を信じている)などを受けて、初等・中等教育の問題点について天文学会としてどのように取り組んでいくのか、検討された。まず縣氏の記者発表に関連して、早急に理事長、副理事長が中心となって声明をまとめることとなった。初等・中等の理科教育全般については、問題の洗い出し、解決へ向けての提言などの実際の取り組みを行う新たな理事長への諮問委員会(仮称:教育懇談会)を設置することとなった。人選については、理事長、副理事長、教育担当理事が中心となって担当する。

3. その他

(ア) 科学振興財団への推薦について(資料8)

元理事長古在氏より、各種の学術賞について日本天文学会の推薦が少ない現状に対して理事会の対応を要望する書面が理事長宛に届いたことが杉山理事より報告された。意見交換の結果、林忠四郎賞選考委員会に学会推薦を依頼することとなった。

(イ) 学術交流費(年会旅費補助)の改訂について(資料9)

天文・天体物理若手の会より、旅費補助制度改定として、旅費補助の申し込みに指導教官の署名を求めること、旅費補助の半額辞退を導入することの2つが提案され、理事会として原則了承した。

(ウ) 2005世界物理年日本委員会参加について

松田理事長から、標記委員会への日本天文学会の参加について提案があり、認められた。国連で承認されたアインシュタインを記念する国際物理年(2005年)を記念して、物理オリンピックの国内大会に対応する物理チャレンジを行うことなどを中心とした各種イベントの開催、講師派遣などが考えられている。中心となる学会、団体は、日本物理学会、日本応用物理学会、日本天文学会、生物物理学会、物理教育学会などである。次に日本天文学会としてどのように関わっていくべきか意見交換が行われた。その結果、10万円の会費を支出することについては了承するが、それ以外にはできるだけ予算的には切り離したいということになった。日本天文学会が関連するイベントを行っても委員会に予算を請求しない代わりに、新たな支出にも応じないということである。

(エ) 創立100周年記念事業について(資料11)

若松副理事長より、創立100周年記念切手の発行手続きについて、説明があった。今度の年末から年始にかけて文部科学省に希望を出さねばならない。今後も副理事長が担当し手続きを進めていくこととなった。

(オ) 欧文研究報告について(資料10)

欧文研究報告の予算を節約するために、ページ当たりの情報量を増加することが可能かどうか編集委員会で検討を行った結果について、蜂巢編集委員長より報告があった。現在のレターサイズの印刷領域からA4へ変更を行うことで、フォントの大きさを保ったまま1ページ当たり12%増加できるとのことである。フォントを小さくすることについては、否定的な意見が大勢を占めた。つぎに、欧文研究報告を半額化、無料化をした場合について、天文学会の負担分の試算が蜂巢委員長より紹介された。ページ数が増加しなければ、半額で281.2万円、無料化で577.2万円の新たな負担が生じる。ただし、ページ数が増加すると、大幅にこの数字が大きくなることが指摘された。今後さらに検討することとなった。

(カ) ペルーの電波望遠鏡計画財政支援(資料12)

会員の Jose Ishitsuka 氏を中心となってペルーに新設する電波望遠鏡の初期運用経費が不足しており、日本国内での募金活動が行われていることが杉山理事より紹介された。天文学会としても是非サポートしていくこととなり、開催中の年会受付付近に募金箱を設置する、ten-

net で寄付を呼びかける、天文月報への寄付依頼の掲載する、などで対応していくこととなった。

(キ) 次回は 2005 年 1 月 8 日 (土), 11 時から, 国立天文台 (三鷹) で開催する。

2004 年 9 月 30 日

議 長 松田卓也 ㊟
署名人 郷田直輝 ㊟
署名人 杉山 直 ㊟

【評議員会議事録】

日 時: 2004 年 9 月 22 日 (水) 12:00~13:10

場 所: 岩手大学上田キャンパス学生センター棟 4 階
会議室 1

出席者: 井上, 太田, 海部, 加藤, 小山, 須藤, 千田, 高原, 福井, 安東, 家, 池内, 梅村, 大橋, 小杉, 佐藤, 観山, 山本 以上 18 名

欠席者: なし

有効委任状提出者: 岡村, 柴田, 高橋, 舞原, 牧島, 吉井, 谷口 以上 7 名

ほかに理事会から, 松田, 祖父江, 若松, 杉山, 郷田, 関井, 松原, 土居, 及び東條事務長が参加した。

議事に先立ち, 議長及び署名人を選出した。

議 長: 観山正見

署名人: 井上 一, 高原文郎

報 告

1. 前回議事録の確認 (資料 1)

杉山理事より前回 (2004 年 7 月 10 日) の評議員会議事録が報告され, 承認された。

2. 開催中の年会について

開催中の年会について, 土居理事より報告があった。講演数は申し込み 616 件, ポストデッドライン 2 件と過去最高であり, 参加者もここまでで 750 名と過去最高に迫る見通しである。その他, 企画セッション, 記者会見などの基本事項について報告があった。続いて郷田理事より, 『プラザおでって』で行われた公開講演会について報告があった。

3. 用語ファイルの使用許諾について (資料 2)

科学技術振興機構 (JST) で開発中の新索引システム (有償) に搭載する JST 大規模辞書に天文用語集のデータを使用したい, という打診が天文学会に対してあり, 天文教材委員会で検討した結果, 有償で使用許諾を与えることにしたとの報告が, 杉山理事よりあった。内容の更新を行うべきであるとの意見が太田評議員より出された。更新については天文教材委員会でも検討中とのことである。

4. 消費税について (資料 3)

関井理事より, 2000~2001 年度に欧文研究報告からの収入が急増したことなどから, 2002 年度, 2003 年度に関して消費税納入義務が生じていたことを見落とし, 納税していなかったことが判明し, 修正申告を行った経緯について説明があった。今後は簡易課税制度を採用することで, 納税額を約半額に抑えられるとのことである。

5. その他

(1) 2005 世界物理年日本委員会参加について

松田理事長から, 標記委員会への日本天文学会の参加について報告があった。国連で承認されたアインシュタインを記念する国際物理年 (2005 年) を記念して, 物理オリンピックの国内大会に対応する物理チャレンジを行うことなどを中心とした各種イベントの開催, 講師派遣などが考えられている。中心となる学会, 団体は, 日本物理学会, 日本応用物理学会, 日本天文学会, 生物物理学会, 物理教育学会などである。大橋評議員 (日本物理学会理事) が, 物理学会からの視点を交えて補足説明し, 意見交換を行った。

(2) 資料 役員・委員等一覧 (資料 4), 正会員年齢分布図 (資料 5)

標記資料について杉山理事より紹介があった。

(3) ペルー電波望遠鏡支援のお願いについて

会員の Jose Ishitsuka 氏が中心となってペルーに新設する電波望遠鏡の初期運用経費が不足している。その不足分を補う目的で, 日本国内で募金活動がすでに行われているが, 天文学会としてもこの募金活動を積極的に支援していくことが理事会で決定された。以上の経緯について杉山理事から報告があり, 続いて海部評議員 (国立天文台長) から補足説明があった。評議員会としても, 積極的に支援することとなった。

(4) 2005 年度内地留学奨学生選考結果について

来年度の採用が決定した奨学生 2 名について, 内地留学奨学生選考委員会西村委員長の代理として杉山理事から報告があった。

議 題

1. 初等・中等の理科教育について (資料 6)

杉山理事より理事会での取り組み方針について報告があった。開催中の年会に先立って行われた縣氏の記者発表がメディアで話題となっている折でもあり, 早急に理事長, 副理事長が中心となって声明を

まとめること、初等・中等の理科教育全般については、問題の洗い出し、解決へ向けての提言などの具体的な取り組み方針をまとめることを主な任務とする理事長の諮問委員会（仮称：教育懇談会）を設置することという基本方針である。意見交換の結果、大筋としてこの基本方針は承認されたが、意見交換の中で、教育懇談会の人選が重要であること、天文学会のみ閉じるのではなく他の関連団体の専門家や、初等・中等教育の現場をよく知る人を招くことを考慮すべきであるとの指摘があった。また、教育懇談会の方向性、最終的なまとめ方をどのように考えているのかという質問があり、まずは問題点の洗い出しをして、方向性を考えていくこととなった。

2. その他

(1) 科学振興財団への推薦について（資料7）

元理事長古在氏より、各種の学術賞について日本天文学会の推薦が少ない現状に対して理事会の対応を要望する書面が理事長宛に届いたことが杉山理事より報告された。理事会では、林忠四郎賞選考委員会に学会推薦を依頼するという対応が検討されたとの報告であったが、あまり安易に他の目的の委員会を使うべきではないとの意見が出され、賞ごとに推薦委員会を作る可能性などについても意見が出され、次回理事会、評議員会での検討課題となった。

(2) 欧文研究報告について

欧文研究報告の予算を節約するために、ページ当たりの情報量を増加することが可能かどうか編集委員会で検討を行った結果について、蜂巢編集委員長の代理として杉山理事より報告があった。現在のレターサイズの印刷領域からA4へ変更を行うことで、フォントの大きさを保ったまま1ページ当たり12%増加できるとのことである。体裁が悪くなる可能性についての懸念が表明された。次に、欧文研究報告を半額化、無料化をした場合について、天文学会の負担分の試算が紹介された。ページ数が増加しなければ、半額で281.2万円、無料化で577.2万円の新たな負担が生じる。今後さらに検討することとなった。

(3) 次回の日程

次回の評議員会は、1月22日（土）、国立天文台で行うことを確認した。

2004年9月30日

議長 観山正見 ㊟

署名人 井上 一 ㊟

署名人 高原文郎 ㊟

【2004年度秋季通常総会議事録】

日時：2004年9月22日（水）16:30～17:20

場所：岩手大学上田キャンパス人文社会学部5号館
1階（A会場）

議事に先立ち出席者数の確認がなされた。総会会場出席者数は145名、事前投票総数は396名である。出席者のうちで事前投票をした42名については、事前投票を無効とした結果、有効事前投票総数は354名となった。したがって有効出席者総数は499名で、定数（正会員総数1,596人の5分の1=320名）を満たすことを確認した。

次に署名人として井上 允氏、桜井 隆氏が選出された。

議事の経過および結果

1. 杉山理事が資料に基づき、2005-2006年度新役員（理事・監事）候補案の説明を行った（第1号議案）。
2. 杉山理事が資料に基づき、2005-2006年度新選挙管理委員候補案の説明を行った（第2号議案）。
3. 杉山理事が資料に基づき、2005年度事業計画案の説明を行った（第3号議案）後、質疑応答が行われた。
4. 関井理事が資料に基づき2005年度収支予算案の説明を行った（第4号議案）後、質疑応答が行われた。
5. 第1号議案、第2号議案、第3号議案、第4号議案は各々賛成多数で承認された。

報告事項等

1. 各種委員会委員
杉山理事が、2005-2006年度各種委員会委員の報告を行った。
2. 消費税について
2000-2001年度に欧文研究報告からの収入が急増したことなどから、2002年度、2003年度に関して消費税納入義務が生じていたことを見落とし、納税していなかったことが判明し、修正申告を行った経緯について、関井理事が説明を行った。続いて質疑応答が行われた。
3. その他
 - (1) ペルー電波望遠鏡支援について
ペルーでの電波望遠鏡計画を支援するための寄付活動を日本天文学会としてもサポートしていくこととなった経緯を杉山理事が説明し、井上 允氏と Jose Ishitsuka 氏が詳しい趣旨説明を行った。
 - (2) 天文功労賞推薦のお願い